

[[[[[[[[調査会ニュース Vol.97]]]]]]](2004.5.9)

小泉総理の訪朝による帰国者家族の出迎えが具体性をもって語られるようになりました。平沢勝栄元拉致議連事務局長の訪中当時から、おそらくかなり進展しているのだろうなどは感じていたのですが、北朝鮮の方も次第に切羽詰ってきたということでしょうか。

9.17 のときも、確かに小泉総理が訪朝したことによって北朝鮮が一部とはいえ拉致を認め、ひと月後には5人を返してきたわけですから、頭から否定するわけにはいきませんが、この話についてまわるのはやはり特定失踪者も含めたそれ以外の人の切り捨てです。基本的にはこれは戦争であり、小手先の交渉でやっていけば問題の解決はありません。

今後具体的な対応もしていきたいと思いますが、総理には平壤を訪問するなら平壤の市内中に特定失踪者のポスターを貼ってくるくらいのことはしてもらいたいと思います。

今日はこれから群馬県沼田市で行われる集会に行ってきますが、珍しく横田代表夫妻及び佐藤勝巳救う会会長と一同に会することになっていますので、そんなことについてもご相談してこようと思います。(荒木)

お知らせ

戦略情報研究所では下記の予定で第1回の講演会を行います。どなたでも参加できますので興味をお持ちの方はお誘い合わせの上おいで下さい。

日時 6月2日(水) 18:30 ~ 20:30

会場 友愛会館1階A会議室(港区芝2-20-12 都営地下鉄三田線芝公園駅A1出口から出て直進1分左側)

講師 安明進氏(元北朝鮮労働党作戦部戦闘員)「北朝鮮の本質について」
増元照明氏(家族会事務局次長・調査会常務理事)「26年間を通して感じたこと」
荒木和博(調査会代表・戦略情報研究所代表)「拉致を招いた日本の体制 昭和史からの視点」

内容についてはまだ若干変更の可能性がります。

参加費 2000円(戦略情報研究所会員の方は後日お送りする参加券をご利用下さい)

[[[[[[[[調査会ニュース Vol.98]]]]]]](2004.5.14)

小泉総理訪朝発表に関し声明発表

この訪朝については帰国した5人の家族8人の帰国と、それによって5人が真相を話してくれることを期待する一方で、死亡と北朝鮮が伝えた拉致被害者や特定失踪者の家族に「拉致問題の幕引きになるのではないか」との強い懸念があります。私たちとしてもこれがマイナスになることだけは絶対に避けたいと思います。皆様のご協力をよろしく願います。

平成 16 年 5 月 14 日

全ての拉致被害者の救出が前提である

--小泉総理の訪朝発表にあたって--

特定失踪者問題調査
代表 荒木 和博

本日小泉総理の訪朝が発表になった。現時点ではまだ詳細は不明ながら、この動きは帰国した5人の家族8人の帰国を前提としたものといわれている。それ自体は歓迎すべきことだが、私たち特定失踪者問題調査会関係者及び失踪者のご家族はこの訪朝が拉致問題の幕引きにつながらないかとの強い懸念を禁じえない。以下、総理及び政府関係者に対して次のように強く訴える。

- 1、帰国した5人にその家族8人を加えると13人である。単純計算すれば拉致被害者が100人なら260人、200人なら520人ということになる。今回の8人の問題はその数百人のうちの8人であり、これはあくまで始まりであると認識するよう求める。
- 2、今回8人が帰国したとしてもそれに至るまでに2年近くを要したことになる。このペースを進めると政府認定・未認定にかかわらず高齢化している被害者の家族はもちろん、被害者本人の生命すら失われていく可能性がある。今回の行動が拉致問題の幕引き、ないしは棚上げにつながるものであれば、総理の姿勢は国民に対する重大な背信であり、絶対に許されるものではない。経済制裁の発動をはじめとする対北朝鮮政策の転換によって、一刻も早く事態の打開を実現するよう求める。
- 3、政府は国民の拉致被害に関してこれまでその多くを隠蔽し、都合の悪いところに関しては「捜査上の理由」を盾に情報公開を拒んできた。この際国民の前にわが国が北朝鮮の工作活動によっていかに蝕まれているか明らかにされるよう求める。特に、政府認定者以外に拉致被害者がいることを警察は認めているのだから、これを一刻も早く明らかにするよう求める。

国交正常化というのは本当に信頼関係が築けるまでの状況に至っていることが前提であり、今日本政府が行うべきことは北朝鮮との国交正常化のための努力ではなく、「北朝鮮

の正常化のための努力」である。イギリスの宥和政策はヒトラーを台頭させ、韓国の太陽政策は韓国内での北朝鮮の工作活動を増長させている。金正日体制の北朝鮮との間に対話は成り立たない。訪朝するのであれば総理がその立場を絶対に忘れることのないよう強く望むものである。

以上

[[[[[[[[調査会ニュース Vol.99]]]]]]](2004.5.15)

ひとこと

荒木和博

ちょっと気になることがあるので、当事者ではないのですが申し上げておきます。

小泉訪朝の話が取沙汰されてから、家族会の中で意見が割れているのではないかと色々報道されています。確かに帰国している被害者の家族と、帰国していない方々の家族では立場が異なるのは当然です。

私は一昨年の小泉訪朝の日、家族会の皆さんと外務省の麻布飯倉公館で福田官房長官・植竹繁雄外務副大臣からの「宣告」を聞きました。死亡、生存で分けられたのですから、あのときは「ああ、これで家族会もおしまいかな」という思いが脳裏をよぎりました。

それから考えると、「生存」と伝えられ、実際に被害者が帰国したご家族と「死亡」と伝えられたご家族が団結して1年半続けてきたこと自体が奇跡に近いことです。皆さんもともごとく普通の市民なのです。私が当事者だったら到底まねができません。そのご苦労は普通ではないはずですがご家族には何の罪もありません。ぜひ、その点を考慮していただきたいと思います。

もちろん、家族が帰ってきたら、残る人々を救出するために5人には日本国内の協力者のことを含めて事実をすべて語ってもらわなければなりません。私自身、先日それぞれの方にその要望を書いた手紙を出しました。おそらく彼らは北朝鮮を出るとき、「しゃべったら子供を帰さないどころか、お前たちや日本にいる家族もただではおかない」位のことでは言われているでしょう。彼らに話してもらうというのは極めて残酷なことです。しかし、それでも語ってもらわなければならないと思います。

まだ今回のことも流動的ですが、声明に書いたように5人の家族が8人であれば、被害者が100人いるとすれば160人の家族がいることになります。これらを何人かずつ取戻すのにいちいち総理が訪朝するわけにはいきません。そして、そんなのんびりしたことをやっていたら皆死んでしまいます。

被害者やご家族が皆亡くなってしまってから「私は外務省を批判していた」「警察がけしからんと言いつけてきた」などと言っても言いわけにもなりません。もちろんこのような負担を被害者の家族に強いてきたのは政治の責任ですが、日本は民主主義の国ですから、それはつまり私たち国民一人ひとりの責任だということです。

ともかく、すべての拉致被害者を根こそぎ、それも早急に取り返さなければならないのです。総理に、そして金正日に「全員の原状回復を実現しなければ絶対に許さない」とのメッセージを伝えましょう。各位の一層のお力添えをお願い申し上げます。

[[[[[[[[調査会ニュース Vol.100]]]]]]](2004.5.18)

ゼロ番台失踪者の日本国内での存在確認

ゼロ番台失踪者（拉致の可能性の完全には排除出来ない失踪者）で第4次リストに公開した山本晃之さんが都内におられるのが確認されました。さらに1名の公開のゼロ番台失踪者の方についても本人の可能性のある人物が都内でみつかり、本人であるかについての確認を進めています。

なお、山本さんについてのお問い合わせはプライバシーの関係があり、基本的には調査会でお受けいたしますのでご了承下さい。調査にご協力いただいた各位に御礼申し上げます。

今後も日本国内におられることが確認された方はプライバシーの問題がない限りできるだけ早く公開していきたいと思っています。他の方々についての情報をお持ちの方はぜひご連絡をお願いします。

21日に1000番台リスト・ゼロ番台リスト追加発表

以下の要領で1000番台リスト（拉致の可能性が高いと思われる失踪者）の第5次発表（10名強）とゼロ番台リストの第8次発表（5～6名程度）を行います。

日時 5月21日（金）14:30～15:30

場所：友愛会館大会議室（港区芝2-20-12 TEL 03-3453-5381）

なお、会見の前に新たに1000番台リストに加わった方を含めた1000番台リストのご家族と調査会役員の集会を行い、アピールをまとめ会見で発表した上、政府への要請を行う予定です（ただし、総理訪朝前日なので変化のある可能性はあります）。

[[[[[[[[調査会ニュース Vol.101]]]]]](2004.5.19)

特に報道関係各位へ---21日の対応について

現状では次のとおりです。前にお知らせしたのから少し変わっています。

- 1、1000番台リストのご家族と調査会役員・関係者の集会（要請文書の採択）
13:30～14:00 於友愛会館
- 2、記者会見
14:00～15:00 於友愛会館
 - (1)1000番台第5次リスト（12人程度）とゼロ番台8次リスト（6人程度）発表
 - (2)小泉総理の訪朝に関する見解の発表
参加者 1000番台リストの失踪者家族（約30人） 調査会関係者（約10人）
- 3、政府要請
15:30～16:00 於内閣府
中山参与が対応の予定

以上の日程はまだ流動的なところが少なくありませんのでご承知下さい。

1000番台第5次リストとゼロ番台8次リストについては資料配付及び写真の掲示を21日10:30より調査会事務所で行います。ただし報道については記者会見開始後にしていただきますようお願いいたします。

山本美保さんについての中間報告明日発表

山梨県警が山形県の漂着遺体とDNAが一致したと発表した山本美保さんについて、家族・地元支援組織及び調査会で真相究明のための調査活動が続いていますが、明日20日3時頃を目処に調査会としての中間報告を発表します（メールニュースで送信）。具体的には明日のニュースをお読みいただきたいのですが、ともかく現時点では山形の漂着遺体を山本さんであると断定するには相当な無理があると認識しています。

[[[[[[[[調査会ニュース Vol.102]]]]]](2004.5.20)

報道関係各位 明日 21 日の対応について

1000 番台リスト・ゼロ番台リストの発表は通常通りですが、メールニュースでのリリ
ースは昼頃行います。取材等の連絡先は別途お知らせしますので、必要な方はその旨記入
したメール（お名前と社名を明記の上）を事前にお送り下さい。

なお、13:30 からの集会、14:00 からの記者会見には拉致議連から西村幹事長・江藤事
務局長もご参加の予定です。

山本美保さんについての中間報告

昨日のニュースでお知らせした山本美保さんに関する中間報告を以下に発表します。こ
の真相究明は極めて重要な問題です。今後とも各位のご協力をよろしく願います。

平成 16 年 5 月 20 日

山本美保さんに関する中間報告

特定失踪者問題調査会

去る 3 月 4 日、山本美保さんのご家族に対し山梨県警から「DNA 鑑定一致」との連絡
があり、翌日正式に名古屋大学の鑑定書が家族に提示された。それによれば昭和 59 年 6
月 21 日、山形県遊佐町の海岸に漂着した身元不明遺体（以下 Y と略称）の骨髄と双子の
妹である森本美砂さんの DNA が一致したとのことであった。

このことはご家族、支援者に強いショックを与えたが、その後の調査によって多数の疑
問点が浮かび上がった。ご家族は 4 月 7 日に山梨県警において山形県警から送られた Y に関
する調書のコピーを閲覧し、調査会では 4 月 28 日、警察庁において五十嵐邦雄外事課長
から説明を受けたが、かえって疑問は強まるばかりであった。

私たちは以下のとおり、これまで関係各方面で調査したことをもとに中間報告として現
時点が存在する疑問点のうち主なものを発表するものである。結論から言えば現時点での
情報で美保さんと Y を結びつけるものは警察発表の「DNA 一致」しかなく、他の情報は
ほとんどが両者が別人であることを示しており、さらにその DNA の一致についても鑑定
及び発表の経緯が不自然である。今後も調査会ではご家族及び地元の支援者と協力して調
査を行うが、一刻も早く事件の真相が明らかになるように関係各位のご協力を切に希望す
る次第である。

1、体格・遺留品について

美保さんの高 3（17 才）時の身体計測では身長 159.5cm 体重 53.2kg 胸囲 81.0cm

座高：87.4cm だった。Y の「頭頂部から臀部下端」（座高に該当）は 95cm である。

また、Y の G パン、下着のサイズは相当にやせ形の体形のものであり、美保さんの体形
とは相当に異なる。また下着、G パン、ネックレスについて、洗濯していたお母さんも

美砂さんも遺留品に見覚えがない。つまり遺留品は本人のものでない可能性が極めて高いということである。

なお、平成 15 年 11 月 7 日、山梨県警の担当者が美砂さんに、16 年 1 月 27 日お母さんに（美砂さん同席）に遺留品の写真を見せている。県警はこのときご家族は「この写真だけでは判別できない」と言ったとしているが、お母さんは「見覚えがない」と明確に否定したと記憶している。

2、遺体の状態について

県警の発表は基本的に柏崎の海岸に本人がセカンドバッグのみを置いて自ら海に入ったということを前提としている。そうであればバッグが発見されたのが 6 月 8 日だから 13 日～ 14 日後の遺体発見となる。しかし、調書には「死後 3 週間から 3 ヶ月」と書かれており、時間的に合わない。また、特別悪かったわけでもない 20 代の女性の歯が最短 13 日、最長でも失踪した日から 17 日の間で 13 本（上顎 3 本、下顎 10 本）も外傷なしに歯が抜け落ちることは考えにくい。

3、荒浜海岸について

山本美保さんは荒浜海岸には行ったことがなく、また、行く理由もない。荒浜駅からは海岸まで徒歩 2 時間かかる。「自殺の名所」となっているわけでもない荒浜海岸に自殺をするために行く理由は存在しない。また、バッグが見つかったから 5 日後の 6 月 13 日には近くで工事中の柏崎刈羽原発 1 号機の核燃料の搬入で午前 3 時頃数千人の反対派が集結し、騒乱状態だったと言われる。県警も過激派の行動を警戒をしていたと思われ、女性が 1 人で行動していれば目に付いてしかるべきだが、誰も目撃者がいない。

4、海流との関係について

柏崎から遊佐までは直線距離で約 200 キロある。途中信濃川、阿賀野川と最上川という大きな川の河口があり、時期的には水量の多い時期である。浮遊物は直線コース（つまり、海岸近くを北東方向に向かった場合）を進んだとしてもこの三つの川の流れに乗って一端沖合に流される可能性が高く、当時の海流などから考えても柏崎・遊佐の間を 13 ～ 17 日で辿り着く可能性はほとんどない（これほどの短期間でなければ方向としてありえないことではないが）。可能性があるとするればその方向に向かう船に引っ掛けて運ばれた場合だが、両足及び右腕は切断されているものの、引っ張って運ばれたと思われる損傷は見られず、この可能性も低い。

7、警察による身元不明遺体との照合について

バッグが発見された翌日である昭和 59 年 6 月 9 日に家族は新潟県警に捜索願を出している。Y が発見されたのは、12 日後である。Y が美保さんならすぐに明らかになっているはずである。また翌年（昭和 60 年）3 月 25 ～ 29 日には再度柏崎に行き警察にも訪れている。その半月後 4 月 15 日に家族は山梨県警に捜索願を提出しており、同年 7 月 3 日には県警防犯課から「美保さんに関して依然、情報無し。本人と思われる該当者

もない」と、家族に連絡があった。しかし家族・支援者からの質問状に対する県警の本年3月17日付け回答書（以下「回答書」と略称）によると、県警はその2日後の7月5日にYの情報を入手したとなっている。「回答書」では「歯形を採取していましたが、ご遺体の損傷が著しく、容貌や身体特徴が不明であったことや、身元確認の決め手となる所持品もなかったことなどから、当時はそのご遺体を山本美保さんに結びつけることができる決め手がなく、歯形の照合は行われていないと承知しております」となっているが、常識的に考えれば決め手がないから歯形の

また、昭和61年12月2日には、富山県警から連絡があり、県内で発見された身元不明遺体の特徴として歯並びのこと、靴のサイズの事を聞いたが違うことが判明。さらに昭和63年11月29日には東京の身元不明遺体との照合について警視庁から連絡があったが照合の結果これも違うことが判明している。Yについて確認していないのは最初から別人だとの判断をしていたということではないのか。

6、DNA鑑定について

DNA鑑定は通常は親子で比較鑑定するのに、それをしなかったのはなぜか。鑑定資料を残さなかったのはなぜか。また、証拠隠滅につながるわけでもないのに、美保さんとYが同一人物であるという唯一の根拠であるDNA鑑定書を開示できない理由が不明である。これではDNA鑑定のプロセスに何かあったのではと疑問を呈されても仕方ないのではないか。ちなみにDNAが一致する場合は一卵性双生児である場合以外に本人である場合があり、DNA検査の結果によって一卵性双生児であることを証明することはできない。

「回答書」には次のように書かれている

「複数の身元不明死体データを調査する中で、平成14年10月23日に性別、血液型が一致し、着衣の一部が類似、発見日時、場所等から山本美保さんである可能性も考えられる本件ご遺体が浮上し、山形県警の調査によって、平成14年11月19日、本件ご遺体の一部（骨髄）が司法解剖を行った山形大学に保管されていることが判明したものです」「平成15年4月26日、山本文子さん、森本美砂さん、山下滋夫さんの同席の場で、山形で発見された身元不明死体の特定のためDNA型鑑定が可能であると説明しており、その後、森本美砂さんから血液の提供を受けております」
家族は4月26日の県警の説明を「これから、全国の身元不明者に対してDNA鑑定をしていく場合があるので美砂さんの血液を採取したい」と聞いているので認識に食い違いがあるのだが、それを措いてもなぜこの間5カ月以上のギャップがあるのか疑問である。

同じく「回答書」によると平成15年5月、山梨県警は警察庁科学警察研究所に第1回目の鑑定に出し、7月22日には「DNA鑑定の結果、山形の身元不明遺体に美保さんの可能性があります。しかし断定的ではないので2回目の鑑定に出します」と美砂さんに伝えたことになっている。しかし、美砂さんはこの当日のメモの中にも本人の記憶にもDNAの話はまったく残っていない。身元不明遺体とDNA鑑定が一致する可能性が

あるという話は、家族にとっては極めてショッキングな話であり、他のことを覚えておりながらDNAについてだけ記憶していないということは常識的にみて考えられない。また、科学警察研究所への鑑定依頼文書には「甲府市女性行方不明事案（殺人容疑）」となっているが、この「殺人容疑」というのは何を意味するのか。

名古屋大学の鑑定は平成15年10月9日開始となっているが、「回答書」のとおり7月22日に家族に通告したのであれば、なぜ鑑定開始までに2カ月半もかかっているのか。また、鑑定終了は16年3月4日だが、「回答書」では3月5日に鑑定結果が出たと言っている。結果を受け取る前に書類を確認もせずに家族に知らせたということである。本人が国内で生存が確認されたとでも言うならともかく、他の条件が一致しない遺体でDNAだけ一致したと言って家族に知らせるとするのは極めて不自然である。また、仮に7月22日にDNA鑑定について伝えたというのが本当だったとすると、科学警察研究所の資料による鑑定終了日である6月6日から1カ月半もかかっていることになる。2つの鑑定の結果の通知になぜこのような差が出たのか不明である。

また3月5日のDNA鑑定の結果通知は専門家が同席しているわけでもなく、担当者は鑑定書を見せながら「私達にもよく分からないのですが、この数字を見て下さい。ここに99999997...と書いてありますね。これが一卵性双生児という事なんです。」とご家族に伝えた。警察がYを美保さんであるとする唯一の根拠であるDNA鑑定書のコピーすら認めず、しかも他の条件の不一致については一切説明がないというのは単なる不手際とは考えにくい。

9、情報開示について

Yについての山形県警の調書については家族及びごく一部の専門家のみ閲覧が許されるだけで、コピーも写真撮影も許されていない。前述の鑑定書も同様である。一方、3月17日に、県警が「回答書」を山本家に届けたとき、支援者の一人がなぜ3月5日の県警発表（以下「発表」と略）に「自殺の可能性」とだけ書いたのかと質問すると「美保さんは拉致の可能性もあり、事件性も考えられ、自殺の可能性もあると思っています。美保さんは拉致の可能性が大だと言うことは周知のことですのであえて“自殺”だけ書きました。」と答えた。

「発表」を読めば分かるように、この表現が、あえて自殺の可能性を示唆したものであることは明らかである。一方で根拠も明示せず自殺を示唆しておきながら、資料の開示については「捜査上の理由」を盾に過剰な制限を加えることには疑問を禁じざるを得ない。

以上はまだ疑問のごく一部に過ぎない。冒頭に記したように4月28日に調査会役員が警察庁を訪れ五十嵐外事課長に面会したとき、山梨県警は「東京で疑問点について説明を行う」と言っていた。しかし、そこで分かったことは警察庁ですらごく初歩的な情報すらつかんでいなかったということであり、残念ながら疑問はさらに深まったと言わざ

るをえない。今後さらに調査を進めて真相を明らかにしていきたいが、関係当局も積極的に情報を開示し、疑問を解いてもらいたい。また、報道関係者各位にはこの事件の真実を解き明かすための一層の努力をお願いする次第である。

資料1 山本美保さん関係略年表

昭和 59 (1984) 年

- 6月 4日 午前10時頃図書館に行くと言ってバイクで家を出る
- 6月 6日 バイクを甲府駅前で見失
- 6月 8日 甲府警察署から午後2時頃自宅に柏崎市荒浜海岸でセカンドバックを見失したとの連絡。午後3時頃柏崎警察から直接電話。
- 6月 9日 両親と叔父が現地に行き当たりを捜索。
- 6月10日 近くの旅館や佐渡行き乗船名簿を調べ、直江津港にも行くが手掛りはなし。甲府に戻る。
- 6月21日 正午頃一部白骨化した遺体が山形県遊佐町十里塚海水浴場の北500メートル地点に漂着していたのを遊びに来ていた者が発見。
- 6月22日 各紙に報道。山形大学医学部法医学教室に遺体を運び司法解剖。
- 6月23日 遺体を遊佐町役場に戻し、火葬。遊佐町の帝立寺に埋葬する。
- 11月 6日 この日から4年半程の間無言電話が自宅に続く。

昭和 60 (1985) 年

- 3月25日 お母さんの文子さんと双子の妹の美砂さん、新潟に行き警察、新聞社、
～29日 飲食店業組合長、保健所などを訪れる。
- 4月15日 山梨県警に捜索願を再提出。
- 7月 5日 「回答書」によれば「山形県警が全国に手配。山梨県警当該遺体の情報を入手」

昭和 63 (1988) 年

- 7月 県警から毎年8月に身元不明人強化月間で資料を見る案内が届く

平成元 (1989) 年

- 7月 県警から毎年8月に身元不明人強化月間で資料を見る案内が届く

平成 10 (1998) 年頃まで捜索願を更新する

平成 14 (2002) 年

- 7月24日 美砂さん小島晴則救う会新潟会長を訪問。アドバイスを受ける。
柏崎署などを訪問。
- 9月21日 山梨県警、美砂さんから相談を受ける。
- 10月 「回答書」「遺体について把握。山本美保さんが受診していた歯科医に照会したがカルテは現存せず」。

- 10月頃 山梨県警から山形県警に身元不明遺体について問い合わせ
- 10月23日 「回答書」「性別、血液型が一致し、着衣の一部が類似、発見場所等から山本美保さんである可能性も考えられる本件ご遺体が浮上し、山形県警の調査によって、平成14年11月19日、本件ご遺体の一部（骨髄）が司法解剖を行った山形大学に保管されていることが判明」

平成15（2003）年

- 4月26日 お母さん、美砂さん、山下滋夫山梨大教授（現調査会理事）が県警からDNA鑑定の話聞く。
- 5月 山梨県警に山形大学が遺体の骨髄を渡す。
- 5月7日 森本美砂さんから血液採取
- 5月9日 警察庁科学警察研究所でDNA鑑定に着手
- 6月6日 鑑定終了。
- 7月22日 「回答書」によれば「厚生年金会館で県警矢崎・清水が美砂さんに性別・血液型を含めた3点が合致すると伝えた」とあるも美砂さんはこれを記憶しておらず、当日のメモにもない。
- 10月9日 名古屋大学でDNA鑑定に着手。
- 10月16日 新潟県警が大澤孝司さんとともに山本美保さんを拉致濃厚と発表
- 11月7日 山梨県警が森本美砂さんに遺体の遺留品を見せる。県警は「このときDNA鑑定中の山形の遺体であると伝えてある」としているが美砂さんにその記憶はない。

平成16（2004）年

- 1月27日 山梨県警がお母さんと美砂さんに遺体の遺留品を見せる。このときも県警は「DNA鑑定中の山形の遺体であると伝えてある」としているが美砂さんには記憶はない。また、県警の回答ではこのときご家族は「この写真だけでは判別できない。わからない」と回答したというが、お母さんは下着、ネックレスについて明確に否定している。
- 1月29日 一斉告発。県警は「捜査はしているが手掛りはない」と家族らに語る。
- 3月4日 名古屋大学のDNA鑑定終了、山梨県警から森本美砂さんにDNA鑑定が一致したとの電話
- 3月5日 名古屋大学のDNA鑑定書を県警が受け取る。森本美砂さん夫妻、甲府市内で山梨県警からDNA鑑定書を見せられる。県警マスコミに発表。
- 3月11日 県警に質問状を提出
- 3月17日 県警「回答書」を家族に渡す。
- 4月7日 家族が県警を訪れYに関する山梨県警の調書の写しを閲覧。
- 4月28日 調査会役員警察庁を訪れ五十嵐外事課長から説明を受ける。

行方不明者「山本美保」さんについて

山梨県警察本部警備第一課では、甲府市内から行方不明となっていた「山本美保」(当時20歳)さんにつき、これまで一連の捜査を行った結果、山形県内で発見された遺体と同一人物であると判断した。

記

1、山本美保さんの行方不明状況等

昭和59年6月4日、甲府市長松寺町の自宅を「図書館に行く」と言って外出し行方不明となり、4日後の6月8日に新潟県柏崎市内の海岸において同人のセカンドバックが発見されている。

なお、本件失踪に関しては、北朝鮮から韓国に亡命した権革(クオンヒョク)が「平成6年頃、北朝鮮国内において見かけた女性が山本美保さんにそっくりである」と証言したとされている。

2、山本美保さんと判断した理由

山形県内で発見された身元不明遺体の一部とのDNA鑑定(本年3月上旬判明)を含めた捜査の結果により、山本美保さんと同一人物であることを判断した。

3、遺体の発見状況

(1) 発見日時 昭和59年6月21日午後0時頃

(2) 発見場所 山形県飽海郡遊佐町地内の海岸

(3) 状況 一部白骨化の状態では海岸に漂着していたところを海岸に遊びに来ていた者が発見

(4) 死因 溺死

(5) 今後の捜査

本件については平成14年9月以降、鋭意捜査を行っていたところであるが、山本美保さんが、平成6年頃、北朝鮮国内において生存していた可能性はない。

死亡理由については、自殺の可能性があるが、捜査を継続する。

資料3 山梨県警の対応(3月7日付け産経新聞山梨版記事)

県警の説明不十分 県警記者クラブが異例の再質問要請 回答ほとんど「言えぬ」

県警警備一課の丸山潤課長が5日夕に行った山本美保さん死亡の発表に対し、「山梨社会部記者会」(産経新聞社など県内の新聞、放送、通信各社が加盟)は同夜、「説明が不十分だった」と文書で異例の再質問を行った。

丸山課長の発表は、県警側の意向で通常の記者会見と異なり、テレビや新聞のカメラを入れずに行われた。発表文を読み上げたほか、遺体の死亡推定日時、DNA鑑定を行った

時期など基本的な質問のほとんどに「捜査は継続しており、言えない」と回答を避けた。

警備一課への再質問への回答の概要は次の通り。記者会では、美保さんの失踪（しっそう）の真相については、県民や全国の特定失踪者の家族などの関心も高いため、正式な会見を求めているが、県警側は「難しい」との姿勢を崩していない。

- - 遺体のDNA鑑定はいつ行ったか

「具体的には言えない」

- - DNA鑑定で遺体と一致したのは、森本美砂さんの血液か

「その通りだ」

- - 身元不明遺体をどう絞り込んだのか

「新潟県を中心に、流れ着く可能性のある場所を中心に女性の遺体を調べた」

- - 何体の遺体をDNA鑑定したか

「言えない」

- - 遺体の死亡推定日時は

「言えない」

- - 着衣は失踪当時と同じだったか

「失踪時、どんな着衣か確認できないため判断できない」

- - 靴は履いていたか

「言えない」

- - 遺体の外傷の有無は

「なかった」

- - 遺体は無縁仏として火葬されたのか

「山形県警が法律に基づいて役場に引き渡したと聞いているので、わからない」

- - 火葬で残った骨をDNA鑑定したのか

「違う。あくまで残った骨髄と（美砂さんの）血液が一致したとしか言えない」

- - 自殺の可能性がある、という根拠は

「自殺を含め、さまざまな可能性について捜査を継続するとしか言えない」

- - 家族にいつ、どのように伝えたのか

「家族の希望で言えない」

- - 今後どんな捜査をしていくのか

「幅広い捜査をしていくとしか言えない」

- - 全国民が注目している。カメラを入れて正式な会見をしてほしい

「それは難しい」

資料4 3月10日に県警に家族・支援者が出した質問状

平成16年3月10日

山梨県警察本部本部長 殿

山本美保の家族
特定失踪者問題調査会
山本美保さんの行方不明の真相究明を求める会

山梨県警の今回の発表に対する質問について

時下、益々ご清祥の事とお喜び申し上げます。

常日頃からご厚情を賜り、御礼を申し上げます。

さて、このたびの平成16年3月5日甲府市ニュー機山において、DNA鑑定の結果が示され、山形県の遺体が山本美保さんであると県警は断定致しましたが、山本美保の家族及び支援団体はいくつかの疑問を抱いている次第です。

そこで、山梨県警に対しまして、別紙添付の質問事項について、平成16年3月17日までに、文書にて御回答をお願いする次第です。

人命尊重の見地から、大至急ご対応頂けますよう重ねて御願い申し上げます。

以上

質問事項

当時、山形の遺体が発見された時に、山形県警から山梨県警に照会の事実はなかったのか。ないとすれば、その遺体の件を、山梨県警が知ったのは、この20年間のうちのいつで、それはどういう経過から知ることになったのか。

山形の遺体の状況を県警はどのような資料から、どの程度把握しているのか、説明してほしい。写真はあるのか、ないのか。あれば県警は見たのか。山形県警の調査資料を山梨県警は読んでいるのか。

当時の新聞報道では、「死後1ヶ月から2ヶ月、20歳から40歳の女性で、右腕が根本から、足が両太ももから切取られていた」とあるが、その通りか。それ以外の本人を特定できるような指紋、顔形、体型、髪型などの身体的特徴は、把握していないのか。その遺体の当時の山形県警の捜査状況も、当然知っていると思うが、それについても説明してほしい。切り取られた理由が、漁船のスクリューだったという根拠はあるのか。その遺体が自殺の可能性があるとの論拠は何か。

首のネックレスが残っているということは、当然頭部も残っていたと思われる。頭部が残っていれば、歯型があるはずだが、歯型の資料はないのか。あれば、その歯型と山本美保さんの照合はなされたのか。なされなかったとすれば、なぜか。

山梨県警が、今回の山形の遺体の骨髄が残っているということを知ったのは、いつで、どういう経過で知ることになったのか。その骨髄を残していた担当者は存命か。その方の所在を確認し、事情を聴取したのか。その骨髄は山形大学の医学部のどこに、どのような保存状態で、どのくらいの量があったのか。骨髄の提供は、担当者からか、それとも大学

側からか。その骨髄試料の写真はないのか。

平成 15 年 5 月に、森本美砂さんに血液提供を求めたのは、山形の遺体との DNA 鑑定が念頭にあったのか。血液提供からなぜ鑑定結果が出るまでに 9 ヶ月間かかったのか。まず警察の科学捜査研究所で鑑定したというが、その期間と結果の状況はどうだったのか。名古屋大学での鑑定が昨年 10 月から 5 ヶ月間かかったのはなぜか。名古屋大学の鑑定書の写しを提供してほしい。試料に用いた骨髄がわずかのために、2 回の調査でなくなってしまったというが、骨髄から取り出して鑑定に用いた DNA 自体は残っているはずだ。その DNA 試料を提供してほしい。

今回、山本美保さんと山形の遺体の一致の根拠は、DNA 鑑定のみで家族に示したが、なぜ DNA 鑑定結果だけで断定したのか？それ以外の根拠はないのか。あったならば、説明してほしい。

県警は山形の遺体の遺留品の写真を、平成 15 年 10 月に美砂さんに、平成 16 年 1 月にお母様に、二度に渡って見せている。その都度「美保ではない」と家族が否定している。今回の DNA 鑑定結果との矛盾について、警察はどのように解釈しているのか。なぜその矛盾の解明を家族に説明しないのか。

遺留品が違ふと家族が知っているにもかかわらず、なぜ科研に続いて名古屋大学に DNA 鑑定を依頼したのか。

平成 16 年 1 月 29 日に、国外移送目的略取容疑で告発状を提出した際に、「捜査はしているが手がかりはない」と県警は家族と支援団体に説明していた。なぜ DNA 鑑定していることを説明しなかったのか。

3 月 5 日(金)夕方のフジテレビのニュースで全国に「山本美保さんが山形の遺体と一致し、事件性のない自殺の可能性が高いと山梨県警が判断した」との報道がなされた。家族や支援団体は、一切マスコミには話をしていなかった。にもかかわらず、逆にフジテレビが家族や支援団体に取材を開始していた。そして、その報道内容は、その後山梨県警の公表した「広報文」の内容そのものであった。警察が情報を一部マスコミにリークしたとしか考えられない。情報リークを認めるか。認めないとすれば、その経緯を調査する意向はないのか。

県警の広報文で「北朝鮮から韓国に亡命した権革(クオンヒョク)が「平成 6 年頃、北朝鮮国内において見かけた女性が山本美保さんにそっくりである」と証言したとされている」「本件については平成 14 年 9 月以降、鋭意捜査を行っていたところであるが、山本美保さんが、平成 6 年頃、北朝鮮国内において生存していた可能性はない」と 2 ヶ所も引用している。権革(クオンヒョク)証言については、特定失踪者問題調査会が山本美保さんを拉致濃厚と判定した時に、証拠としては重きをおいていない。にもかかわらず、なぜ県警はその証言を重視するのか。その理由を説明してほしい。

セカンドバックが発見された柏崎、遺体が発見された山形県遊佐町は、北朝鮮の作業員の上陸地点だが、県警はそのことを認識していたのか。

美保さんが失踪してから、無言電話があったが、県警は一体誰が何のためにかけたと考えているのか。3 年 6 カ月後の電話では「美保でしょ？ 元気？」という、かすかに「元気ノノ」と答え、この他電話口ですすり泣く声や無言電話が続いたというが、警察はこのことをどのように解釈しているのか。

元北朝鮮工作員安明進氏によれば、「拉致された人が抵抗した場合強烈に殴打され、死亡した人もいた」と言っている。仮に今回の遺体が山本美保さんだとしても、北朝鮮工作員の上陸地点であること、遺体の状況から拉致の失敗など、拉致の可能性を県警は考えていないのか。

今回、県警はなぜ家族の要請にもかかわらず山下滋夫氏ら支援団体の代表者らの同席を許されなかったのか。「捜査上の理由」ということで断ったが、それまでは、山下氏ら支援団体を「捜査上の理由」で、県警から状況報告したり、協力を求めたり、してきたにもかかわらず。

資料 5 資料 3 の質問状に対する 3 月 17 日付県警の回答

山本文子・森本美砂・森本直行 殿

山梨県警本部警備第一課長

捜査経過の通知について

犯罪捜査規範第 10 条の 3 に基づき、3 月 10 日付のご質問事項に沿って別添のとおり通知いたします。

質問事項 1 について

山形県では当該身元不明死体が発見されたのは、昭和 59 年 6 月 21 日であり、山形県警では、自他殺の別、死因などを特定するためご遺体を司法解剖に付すなど、必要な捜査を行ってきましたが、身元を特定する有力な手がかりは得られなかったと承知しております。警察では、身元不明死体を認知し、指紋、身体特徴、各種照会を行っても身元が確認できない場合は、身元不明死体票を作成し警察本部鑑識課に送付しており、鑑識課では補完されている家出人票との対照を行い、該当がない場合、当時は全国の警察本部鑑識課に直接文書を送付しての照会を行うことで、不明者の確認を行っていたところです。昭和 60 年 7 月 5 日、本件ご遺体に関しても山形県警が全国に手配を行っており、山梨県警は、この時点で、当該身元不明死体の情報を入手したところであります。

質問事項 2 について

山梨県警においては、山形県警の全国手配により、当該身元不明死体について、死因、身体的特徴（写真を含む。）等の解剖結果等を含め、山形県警において行われた捜査状況について把握しております。

なお、当時の捜査によれば、死因は溺死、自他殺は不明、死後 3 週間から 3 カ月、血液型 A 型、推定年齢が 20 ～ 25 歳、推定身長が 160 ～ 170 c m、左右下肢の大腿上端部での欠損には、スクリューによる痕跡が認められたと承知しております。また右上半肢がなく、左手表皮が消失していることから、指紋の採取はできず、頭部、顔面が白骨化していたと承知しております。

しかしながら、ご遺体の身元を特定する有力な手がかりを得るには至らなかったと承知しております。

質問事項 3 について

本件ご遺体については、山形県警において、歯形を採取していましたが、ご遺体の損傷が著しく、容貌や身体特徴が不明であったことや、身元確認の決め手となる所持品もなかったことなどから、当時はそのご遺体を山本美保さんに結びつけることができる決め手がなく、歯形の照合は行われていないと承知しております。

なお、平成 14 年 10 月にこのご遺体について山梨県警で把握後、山本美保さんが受診していた歯科医に対する照会を行いました。すでにカルテの保存期間を経過していたことから、カルテは現存せず、このご遺体と歯形の照合を行うことはできませんでした。

質問事項 4 について

山梨県警では、平成 14 年 9 月 21 日にご家族から「北朝鮮に拉致されたのではないか」との相談を受けて以降、関係者約 100 人の事情聴取をはじめ、事件、事故などあらゆる事案を想定し幅広い捜査、調査を行うと同時に、広範囲に身元不明死体の調査を行ってきました。

複数の身元不明死体データを調査する中で、平成 14 年 10 月 23 日に性別、血液型が一致し、着衣の一部が類似、発見日時、場所等から山本美保さんである可能性も考えられる本件ご遺体が浮上し、山形県警の調査によって、平成 14 年 11 月 19 日、本件ご遺体の一部（骨髄）が司法解剖を行った山形大学に保管されていることが判明したものです。

本件鑑定人はご存命ですが、既に同大学を退官されております。骨髄は、山形大学の法医学研究室に、微量ではありますが、本件ご遺体のものであることが明確にされた形で保管されており、保管者である山形大学の医師から適正な手続を経て提出を受けております。

写真については鑑定書（DNA 型鑑定）に添付されています。

質問事項 5 について

平成 15 年 4 月 26 日、山本文子さん、森本美砂さん、山下滋夫さんの同席の場で、山形で発見された身元不明死体の特定のため DNA 型鑑定が可能であると説明しており、その後、森本美砂さんから血液の提供を受けております。

鑑定はまず平成 15 年 5 月、警察庁の科学警察研究所で行い、6 月上旬、山本美保さんである可能性はあるが断定できない旨の回答を得ました。この結果についても、ご家族には説明しております。その後、名古屋大学に対し平成 15 年 10 月上旬、DNA 型鑑定を依頼したところ、本年 3 月 5 日、本件ご遺体が森本美砂さんと一卵性双生児であるとの鑑定結果が出たものです。

鑑定書の写しについては、本件が未だ捜査中の事件であることから交付することはできませんが、名古屋大学では本件を重要な案件であると捉え、慎重な鑑定を行った結果、5 ヶ月という期間を要したものであります。鑑定に用いた DNA については、現在も名古屋大学において保管されているようですが、その詳細については同大学へ確認中です。

質問事項 6 について

本件ご遺体が山本美保さんであると判断するに当たっては、DNA 型鑑定が決め手とな

っておりますが、山本美保さんが昭和 59 年 6 月 4 日に行方不明になり、6 月 8 日に新潟県柏崎市でセカンドバッグが発見されたこと、山形県で 6 月 21 にご遺体が発見されたこと、新潟県から山形県への海流等の捜査、解剖の所見等を踏まえ、総合的に判断しました。

質問事項 7 について

山形県の身元不明死体の遺留品のネックレスとGパン、下着については、平成 15 年 11 月 7 日に森本美砂さんと平成 16 年 1 月 27 日山本文子さんにそれぞれ写真で確認していただきましたが、その際のご家族の回答は、この写真だけでは判別できない、わからない、との内容でありました。

DNA 型鑑定はまず警察庁の科学警察研究所で行いましたが、山本美保さんの可能性はあるが断定できない旨の結果であったことから、7 月 22 日、森本美抄さんに対して科学警察研究所のDNA 型鑑定結果を述べた上で、再鑑定を行うこととお話しております。

質問事項 8 について

DNA 鑑定を行っていることはすでにご家族には伝えてありました。また、告発を受理した時点では鑑定中でありました。

質問事項 9 について

山梨県警では、これまでも、捜査に関する情報については、ご家族の立場や心情に配慮した取り扱いをしております。

従って、ご家族への連絡、説明を最優先とし、報道発表についてもその後に行うこととしておりました。

山梨県警では、こうした立場から、ご家族への説明に先立つ報道関係者への説明は一切行っておりません。

質問事項 10 について

DNA 型鑑定の結果などから、昭和 59 年 6 月 21 日に山形県で発見されたご遺体が山本美保さんであると判断したことから、平成 6 年に山本美保さんが生存していた可能性はない、という判明した事実を述べたものです。

質問事項 11 について

柏崎市は、昭和 53 年 7 月のアベック拉致容疑事案の発生場所であり、山形県遊佐町に隣接する酒田市でも、過去に北朝鮮工作員と見られる者が潜入した事例があることは承知しております。

質問事項 12 について

捜査は行いましたが、解明するには至っていません。

質問事項 13 について

本件については、一連の捜査結果を勘案すれば、山本美保さんの失踪は、自殺によるも

のである可能性がある一方、拉致の可能性も完全には排除できないものとして、捜査を継続することとしております。

質問事項 14 について

捜査上の理由と、ご家族及びこれまで捜査に協力いただいた関係者のプライバシーに配慮して判断いたしました。

[[[[[[[[調査会ニュース Vol.103]]]]]]](2004.5.21)

特定失踪者リスト新たに発表

本日 2 時より調査会では記者会見を行い、以下の第 5 次 1000 番台リスト 10 人、第 8 次 1000 番台リスト 6 人を発表します。

報道関係各位：報道は会見スタートまでお控え願います。

第 5 次発表 1000 番台（拉致の可能性が高いと判断される失踪者）

徳永 陽一郎（とくなが よういちろう）（当時 18 歳）

生年月日：昭和 10 年（1935）1 月 14 日

失踪年月日：昭和 28 年（1953）10 月 7 日

当時の身分：染料店店員（配達）

当時の居住地：長崎県長崎市

失踪場所：長崎市の家を出て

失踪当時の状況：新しい仕事の話があり、履歴書を書いている途中で突然いなくなった。その履歴書に貼るための写真を店にとりに行く前に失踪した。10 月 7 日に門司から書留が届く。家族から借りていた 1500 円を返してきたもので「いい仕事があった」「歩いてでも帰ってきます」と書かれていた。

《権革による目撃情報》

1998 年から 1999 年まで私が収容所の幹部をしていた時に見た。

私が、収容所の幹部をしていたため、収容時に取調べをした。

現在も収容所にいるだろう。可能性として生きている。

収容所に入れられた罪は、「資本主義が良い、拉致されてきた、日本に亡命する」ということを酔っ払って言っていたのをその場にいた友人に密告されたためだ。

書類には、1954 年か 1955 年に朝鮮に来た日本人となっていた。

日本語をよく話していた。

172 センチからもしかすると 180 センチぐらいあったかと思う。

体格がガッシリとしていた。

右の肩に傷があったことを覚えている（入所時の身体検査の時の記憶）。

傷がどんなものかははっきりしないが刃物による傷のようなものだ。

盲腸の手術の跡もあった。

娘が一人、息子が二人いる。

加瀬 テル子（かせ てるこ）（当時 16 歳）

生年月日：昭和 19（1944）年 5 月 4 日

失踪年月日：昭和 36（1961）年 3 月頃

当時の身分：家事手伝い

当時の居住地：千葉県海上郡海上町（かいじょうぐん うながみまち）

失踪場所 : 千葉県海上郡海上町

失踪当時の状況 : 失踪当日、叔母と、翌日に新宿コマ劇場へ観劇の約束をし、午後パーマに行ってそのまま戻らなかった。パーマ屋では、観劇を楽しみにしていると本人が語っていたとのことで、自らの失踪とは考えられない。当時の海上町周辺は、砂鉄、水あめが大きな産業であり、在日の企業・従事者が多かった。そして、それらは「大町ルート」によって、新潟、富山へ輸送され、北朝鮮に輸出されていた。その「大町ルート」で多くの失踪事件が発生している。また近隣の旭市、飯岡市、八日市場市周辺で失踪が多発しており、それらは相互につながりが有ると見られる。

《匿名の人物による目撃情報》

加瀬てる子さんに良く似た女性をピョンヤンで見た。本人は「千葉の海から来た」と言っていた。

屋木 しのぶ(やぎ しのぶ) (当時 19 歳)

生年月日 : 昭和 23 (1948) 年 1 月 27 日

失踪年月日 : 昭和 43 (1968) 年 1 月 18 日

当時の身分 : 美容師。美容学校卒業後、インターンとして美容院(東京都立川市、富山県入善町青木)で働いていた。

当時の居住地 : 富山県下新川郡入善町

失踪場所 : 富山県下新川郡入善町

失踪当時の状況 : 失踪当日、勤め先の美容院から休みをもらい、母の実家である入善町新屋の叔母の家に行き、双子の赤ちゃんの帽子と靴下を編んでいた。帽子と靴下ができ上がり、夕方 6 時半頃、新屋のバス停に向かった姿を叔母が見送ったのが最後。お金や荷物は持たず、運転免許証も置いたまま。いとこの嫁には、いなくなった次の日に富山市内に遊びに行こうと誘っていた。失踪当日は大雪だった。

すでに 1000 番台として発表している水島慎一さんの失踪のおよそ 2 週間前に失踪。場所は水島さんが失踪した朝日町の隣の入善町である。さらに 2 人の失踪の 1 年前にも、屋木さんのいとこ(女性)が経営していた編み物教室に来ていた二人の女性が、編み物教室が終わり道に出たところ、トラックが近づいてきて荷台にいた男性数人に引き上げられそうになったという未遂事件が起きている。以上のように、他の失踪事件との時期・場所の類似、また北朝鮮工作員の侵入地点(水中スクーターの発見地点)に非常に近いことなどから判断した。

園田 一・敏子(そのだ はじめ・としこ) (当時 53・43 歳)

生年月日 : 大正 7 年(1918) 2 月 25 日(一さん)

：昭和4年（1929）9月7日（敏子さん）
失踪年月日：昭和46（1971）年12月30日
当時の身分：ともに養鶏場勤務
当時の居住地：鹿児島県曾於郡大崎町
失踪場所：鹿児島県曾於郡大崎町の自宅から宮崎空港へ向かう途中
失踪当時の状況：正月に帰省する次女を迎えに宮崎空港へ行く途中、ガソリンスタンドに寄った後、消息を絶つ。空港の帰り、都城市へ寄ってから国道269号線を帰ってくると言っていた。警察や地元の住民らで大捜索を行なったが、車の破片さえ発見できなかった。
1971年10月2日、額娃海岸（鹿児島県揖宿郡）で、ゴムボートに乗って海の方から上陸する二人の不審な人物を夜釣りをしていた人が目撃して、指宿署に通報。後日2人は事情聴取され、外国人登録証を持たない、北朝鮮生まれの人物だったことが判明した。

《権革等による目撃情報》

私の友人の証言によれば、園田敏子さんと思われる女性は2002年に死亡した。友人はその女性を「おばさん」と呼んで親しんでいた。友人は彼女と同じ町に住んでいた。友人によれば、背が高い人で、結婚して、娘がいた。その娘は、朝鮮人と結婚していた。私も「拉致された」と本人が言っているとの噂を聞いている。園田さんが夫婦で失踪したことは知っているが、北朝鮮には一人で来たとのことだ。

遠山 文子（とおやま ふみこ）（当時21歳）

生年月日：昭和27（1952）年5月2日

失踪年月日：昭和48（1973）年7月失踪

当時の身分：無職（建設会社退職直後）

当時の居住地：東京都に在住のあと旅行にでかけて

失踪当時の状況：遠山さんは昭和48年3月末に家出。その後、会社の同僚の男性と暮らしていた様子。両親がそのアパートを訪ねたが、その1週間後アパートを引き払い、勤めていた建設会社も6月15日に男性とそろうって退社している。当初は墨田区押上に在住。その後その男性とともに、福岡、東萩、津和野、札幌、女満別、知床、摩周湖、釧路、小樽、舞鶴、大阪、最後は石川県羽咋市の柴垣の海水浴場（1週間滞在）と転々と旅行した記録を示すアルバムが、遠山さんの友人に送られてくる。アルバムには写真ばかりではなく航空券、宿の領収証などが細かに貼り付けてあった。途中、宿泊人数が4人になったことがあった。それほど親しくない友人にアルバムを送りつけるなど失踪の不自然さや失踪場所、それに目撃証言を加味し、判断した。

《権革の目撃証言》

清津連絡所で1993年6月に会い、接待を受けた。3日に3度会い、一緒に食事をした。身長157・位でふくよか、活発な性格。キム・ソングムと名乗った。「どこか分からないが海外に出る予定」と言っていた。

清崎 公正（きよさき きみまさ）（当時41歳）

生年月日：昭和7（1932）年9月5日

失踪年月日：昭和49（1974）年6月14日

当時の身分：建設会社経営（大工）

当時の居住地：兵庫県尼崎市

失踪場所：兵庫県尼崎市

失踪当時の状況：失踪当日午前9時頃、通常と同じように弁当を持って近くの銀行に歩いていくのを妻が見送ったのが最後。銀行では支払いのため50万円下ろしている。そのお金は自宅から歩いて10分の事務所に置いたまま、電気もついたままであった。失踪後なくなったものはない。失踪後2～3カ月して乗っていた軽トラックが尼崎の阪急園田駅近くの額田で発見された。

経営は順調で当時現場を8件かかえ、新しい仕事のため建機も2台購入したところだった。

仕事を整理したときも借り入れは一切無かった。失踪後無言電話が数回あった。

失踪直前から在日朝鮮人と思われる人物と、仕事の取引で知り合い、急速に親しくなった。この人物は失踪後、警察への届出や仕事の整理などを2週間程度で手際よく行なったあと、姿を消している。

自ら失踪する動機が見当たらないこと、北朝鮮工作員の拠点の一つである場所での失踪、不審な人物との接触など、複数の要因から総合的に判断した。

山田 建治（やまだ けんじ）（当時30歳）

生年月日：昭和24（1949）年1月22日

失踪年月日：昭和54（1979）年12月18日

当時の身分：ドラム缶工場勤務

当時の居住地：富山県西礪波郡福岡町

失踪場所：福岡町の自宅から高岡市の勤務先への通勤途上

失踪当時の状況：車で出勤途中に失踪。1週間後越中国分駅の海側で車（三菱ジープJ-54）がキーをさしたまま放置されているのがみつかると、車内に運転免許証、財布、空の弁当箱が残されていた。

富山県高岡市の雨晴海岸では、山田さん失踪前年の78年8月15日にアベック拉致未遂事件が起きている場所であること、山田さんの勤務先のドラム缶工場がその現場に近いこと、失踪付近で海に向か

って発着信号が送られていることが目撃されていること、また失踪の形態や車が放置されている状況など、他の失踪との類似性から判断した。

辻 與一（つじ よいち）（当時 32 歳）

生年月日 : 昭和 24（1949）年 2 月 6 日

失踪年月日 : 昭和 56（1981）年 12 月 4 日（この日の朝まで下宿にいたことが確認されている）

当時の身分 : 高校英語教諭

当時の居住地 : 三重県桑名市

失踪場所 : 三重県桑名市

失踪当時の状況 : 失踪当日昼前、下宿から失踪。失踪数日前から、下宿に不審な男性が見張っていて、一度は下宿の敷地内に入ろうとしたため、下宿の大家が制したこともあった。下宿の部屋に朝鮮関係の本がたくさんあり、また残されたノートにはそれらの本の感想や、北朝鮮に関連すると思われるサークル活動に参加した記録などが、日記のように記されていた。週明けに期末試験が控えており、通常の勤務状況、当時の部屋の様子からして、自らの意思による失踪とは考えられない。

林田 幸男（はやしだ ゆきお）（当時 53 歳）

生年月日 : 昭和 9（1934）年 12 月 2 日

失踪年月日 : 昭和 63（1988）年 7 月 17 日

当時の身分 : 建設会社経営

当時の居住地 : 宮崎県児湯郡高鍋町

失踪場所 : 宮崎県沖海上

失踪当時の状況 : 林田さん所有の遊漁船「共擁丸」1 トンで、友人と二人で午前 4 時頃、宮崎市の大淀川河口の通称「タンポリ」を出港、その後二人とも消息を絶つ。海上保安庁や自衛隊など海と空から四国沖まで広い範囲で捜索を続けたが、ライフジャケットが見つかっただけで船の残骸など一切見つからなかった。またパーソナル無線を持っていたが、何の連絡もなかった。当時はべた凧だった。

林田さん失踪の翌年 10 月、宮崎県高鍋町沖で地元の釣り人が釣りをしていたところ、不審な船に追いかけられたという。宮崎県中南部海岸では原勲晃さんの拉致が行なわれ、また工作員の上陸も確認されている。当時宮崎県警は、北朝鮮の不審船や密航者に注意を促すビラを配っていたことから、工作員がかなり頻りに出入国を繰り返した地域と思われる。

第8次発表 特定失踪者0番代リスト

藤田 慎(ふじた しん)(当時29歳)

生年月日 : 昭和6(1931)年9月5日

失踪年月日 : 昭和35(1960)年

性別 : 男

当時の身分 : 三菱重工に勤務

当時の居住地 : 東京都大田区蒲田本町(姉夫婦の当時の居住地)

失踪場所 : 不明

失踪当時の状況 : 長兄に旅行に行くと新品の靴を借りに来る。次男夫婦に、「結婚したい人がいる」と相談。また、弟にお金を借りに来る。その後音信不通。失踪から数年後、兄夫婦宅(川口市仲町)に年賀状が届く。字体は達筆(本人の字体に似ていた)。差出人の名前がなかった。消印は世田谷(?)だったようである。昭和51年2月7日失踪の藤田進(19)のおじにあたる。

白鳥 英敏(しろとり ひでとし)(当時19歳)

生年月日 : 昭和24(1949)年10月27日

失踪年月日 : 昭和44(1969)年7月

性別 : 男

当時の身分 : 信州大学農学部1年

当時の居住地 : 長野県松本市

失踪場所 : 長野県松本市の下宿先から

失踪当時の状況 : 松本市の下宿先より行方不明。家主が毎日、下宿から出かけるとき、帰ったときに声をかけていたが、本人が入院中のため留守で、いつごろからいなくなったのか分からない。退院してきていなくなったのではないかと、家主から家族に連絡があった。家族が大学に行き調べた結果、7月中旬頃大学の図書館で見かけた人がいることが分かった。そのとき会った学生に調べてもらい44.10.17付けの葉書をもらう。その学生によれば、学生運動に詳しい人にきいてみたがよい返事が得られなかった。父あての最後の葉書(44.6.25付け)では学生紛争中ではあるが少しはクラスで勉強したり、クラブでコロナ観測所に行くこと、6月30日の夕方に帰ること等が書いてあった。学生運動に熱中している様子もなく、家出する理由もない。部屋の中も暮していたままで食事のあとがそのまま、食器も洗わずにおいてあった。

鈴木 清江(すずき きよえ)(当時23歳)

生年月日 : 昭和33(1958)年3月27日

失踪年月日 : 昭和57(1982)年2月5日

性別 : 女

当時の身分 : 会社員 事務職

当時の居住地 : 静岡県袋井市宇刈 1192

失踪場所 : 静岡県袋井市宇刈

失踪当時の状況 : 本人が車での帰宅途中、妹さん、お母さんと出会う。本人の車が交差点で発進したところ一台の車を追い越す。さらに、その車が本人の車を追い越し、直前に止まる。男が降りてきて車の横で下を向いて立っており、本人も男を見るように立っていた。妹さんもお母さんも車にも男にも見覚えなし。妹さんとお母さんはそのまま帰ってきてしまったが、本人はそのまま行方不明。翌朝、道路横の空き地に本人の車が鍵をかけた状態で止まっていた。バッグはなく、財布と買い物をしたものが残されていた。失踪する理由は思い当たらない。警察も調べたが何らの結果も出なかった。

藤山 恭郎 (ふじやま やすろう)(当時 22 歳)

生年月日 : 昭和 35 (1960) 年 1 月 13 日

失踪年月日 : 昭和 57 (1982) 年 12 月 14 日

性別 : 男

当時の身分 : 無職

当時の居住地 : 大坂府大阪市東淀川区菅原 6 丁目 6 番 6 号

失踪場所 : 不明

失踪当時の状況 : 昭和 57 (1982) 年 12 月 14 日、本人から実家に手紙が来てそれ以来、音信不通。親子関係は良好だったが、昭和 57 年夏、帰省中に自殺未遂。帰省中に大学を中退したい、郵政省の試験を受けたいなどと話す。昭和 57 年 12 月 9 日大学に中退届け。失踪後、約 1 年間、毎月 15 日前後に呼び鈴が 2 ~ 3 回なりすぐ切れる電話があった。一度、父親が出ると声が聞き取れずにすぐに切れた。

佐々木 正和 (ささき まさかず)(当時 37 歳)

生年月日 : 昭和 25 (1950) 年 8 月 15 日

失踪年月日 : 昭和 62 (1987) 年 11 月末

性別 : 男

当時の身分 : 家庭教師、塾講師をしていた。(正確には不明)

当時の居住地 : 埼玉県大宮市宮原町 3 - 555 カマエ荘

失踪場所 : 埼玉県大宮市?

失踪当時の状況 : 昭和 62 年 11 月末日、アパートの大家と話をした後、不明。1 人暮らしのためはっきりした日時がわからない。大家から 12 月に連絡があった。部屋の中は荒らされていない。現金 10 万円が部屋にあり、預金もそのまま。免許証もおいたまま。家族とは数ヶ月に一度顔を見る程度だった。

永島 康浩 (ながしま やすひろ) (当時 23 歳)

生年月日 : 昭和 53 (1978) 年 7 月 26 日

失踪年月日 : 平成 14 (2002) 年 4 月 30 日

性別 : 男

当時の身分 : 准看護師

当時の居住地 : 栃木県下都賀郡

失踪場所 : 下都賀郡の自宅を出てから不明

失踪当時の状況 : 平成 14 年 4 月 29 日、職場を変わりたいような話をしている、夕方求人広告を見ていた様子。家庭では看護師そのものをやめたいとは言っていない。4 月 30 日、19 時頃、本人が母に「レンタルビデオ屋にビデオを返してくるから夕食は帰ってから食べる」と言った。いつもと変わらない様子だった。同日 20 時頃、隣の部屋にいた父が本人の声で「今すぐ行く」と言っていたのを聞く。明るい感じの声で話していた。短い電話の内容、相手はわからず(携帯電話)そのまま行方がわからなくなる。

本日政府・議連に要請

本日 1000 番台リストのご家族が都内に集まり、政府・議連に要請します。要請内容は 1 時半からの家族・調査会役員の集会で決定しますが、原案は以下の通りです。

内閣総理大臣 小泉純一郎様

拉致議連会長 平沼赳夫様

内閣参与 中山恭子様

要請文

平素の拉致問題への献身的取り組みに対し心より敬意を表します。

さて、総理の訪朝が明日に迫りましたが、私たちはこれに対し、期待よりも不安と強い懸念を感じております。今回の訪朝では帰国した 5 人の家族の皆さんの帰国に焦点が当てられており、政府首脳の間からは時折残り 10 人の政府認定被害者の安否確認の話が出る程度で、未認定拉致被害者の問題はほとんど聞かれません。

現在のわが国の状況では政府認定から外交交渉へというルートしか拉致被害者を救出する方法は存在しません。そのような中で総理ご自身の訪朝されるという決定的なカードを切られるわけですが、ここで未認定拉致被害者の問題を無視したり、あるいは巷間言われている「合同調査委員会」などというものに任せることにしてしまえば事実上の幕引きとなり拉致問題の完全解決は極めて困難になります。

曾我ひとみさんの例でも分かるように、政府が認定していない拉致被害者は明らかに存在するのであり、警察の幹部もそれを認めています。拉致は北朝鮮の国家意思で行われた犯罪行為であり、政府認定であれ未認定であれ、すべての被害者を救出することが政府の責務です。

特定失踪者問題調査会では少なくとも 100 人以上の日本人が拉致されていると認識しており、しかも、その中には家族のみならず本人も高齢化しているケースが少なくありません。さらに、現在の帰国者 5 人に家族 8 人を合わせれば 13 人です。100 人の拉致被害者がいれば家族は 160 人、あわせて 260 人になるのです。被害者が 200 人なら 520 人、それらの人を一刻も早く救い出すことが最優先課題であることを絶対に忘れないで下さい。家族のみならず、被害者自身の中にも高齢の方はおられます。時間がないのです。

北朝鮮の様なテロ国家、独裁国家を相手に拉致された国民を救出することが困難であることは私たちも承知しております。しかし、それをなさずして、「人道」の名目で援助するのであれば、まさに国民への背信です。どうか、すべての拉致被害者の救出のために再度決意を新たにして下さいますよう、心よりお願い申し上げます。

平成 16 年 5 月 21 日

特定失踪者家族有志一同

特定失踪者問題調査会代表 荒木和博

特定失踪者家族支援委員長 真鍋貞樹

[[[[[[[[調査会ニュース Vol.104]]]]]]](2004.5.22)

小泉訪朝に関する声明

まあ、呆れてものが言えませんが、これは小泉総理が「政府は何もできないんだ、君たちにかかっているんだ」と激励してくれているのだと思います。現実を見せてくれたという意味では感謝すべきかも知れません。政府がどうであろうと私たちは全力を尽します。

小泉総理訪朝の結果について

今回の小泉総理の訪朝は結果からすれば最悪のものであったと言わざるをえない。当然成し遂げられるべき家族8人全員の帰国すら実現せず、北朝鮮が拉致を認めた8人については「再調査」という口約束のみであった。特定失踪者については一切言及すらなかった。これは特定失踪者のご家族の切なる願いを踏みにじったものだ。

さらに「人道」という名目のコメ支援、医薬品の援助を行う一方で経済制裁はしないことを約束するなど、日本の持つ多くのカードを手放してしまった。これまで行ってきた拉致問題解決への国民の努力の積み重ねを完全に否定するものである。およそ認められるものではない。

私たちは今回の総理の行動は国民への重大な背信であると考えます。しかし、このままで怒りを持つだけでは拉致被害者はその大部分が北朝鮮で救おうともしない故国日本を恨みながらその生を終えてしまうことになりかねない。それは私たち日本国民すべての責任である。

すでに小住建蔵さん、田中実さんと松本京子さんについては政府内部に拉致認定の動きがあるにもかかわらず首相官邸で止められていると聞く。また、山本美保さんのDNA鑑定など極めて不審な動きも見過せない。これでは政府は拉致問題を幕引きしようとしているとしか思えない。

私たちは日本政府が動かなくても、いや、妨害しようとも拉致された日本人すべてを救出することを決意した。ここであらためて志ある国民の皆様にご協力をお願いする次第である。

平成 16 年 5 月 22 日

特定失踪者問題調査会代表 荒木和博

[[[[[[[[調査会ニュース Vol.105]]]]]]](2004.5.23)

ひとこと

総理の帰国後の家族会への説明のとき、当初非公開のはずだったのを公開にしたのは総理サイドの意向によるものだそうです。つまり、家族会が当然怒っていることを見越して、あえてマスコミの前で批判させ、それによって家族への世論の批判を誘導しようとしたものということです。

それが事実なら大した(?)ものですが、できればその知恵を金正日相手に使ってもらいたかったと思います。しかし、その総理の目算はある程度成功し、総理への批判ばかりが報道を通じて流されて、イラクの人質家族とオーバーラップしたため、家族会に対して抵抗感を感じた人もおられたようです。

街頭調査をやったあるマスコミの友人は、60パーセントを越える人が小泉訪朝を評価した、こんなことで良いのか、世論はどうなっているんだと言って嘆いていました。事情を知らない人にとっては「ともかく家族を5人でも取り返せたのだから前進ではないか、頭ごなしの批判はおかしい」ということになるのでしょうか。

しかし、この認識には重大な事実誤認があります。というのは、拉致問題の解決というのは家族の帰国ではなくて、直接の拉致被害者の帰国があってこそだからです。それも、政府認定の15人どころではなく、100人を越す全被害者を取り返さなければ解決にはなりません。

あらためて思ったのですが、政府認定の15人というのは拉致を解決するための認定ではなく、そこで「食い止める」ための認定だったのです。すでに警察は田中実さんと小住健蔵さんの認定を求めているといいますが、官邸が握りつぶしているというのは間違いのないことで、その警察も山本美保さんのDNA鑑定問題などで極めて不審な動きをしています。

総理は平壤での記者会見で、政府認定拉致被害者のうち未帰還10名について「家族が生存を信じているのですから」と言っていました。実はこれは大変なことで、「私は怪しいと思うんですが、家族がそう言っているので仕方なくやっているんです」と言ったようなものです。一国の総理がこういう場で絶対に言うてはいけないことです。本来なら情報機関を使ってどこにいるという情報集めておき、金正日に叩きつけて「今から連れて帰るからここまで連れてきなさい」と言わなければならないはずですが、本人たちがどこにいるかは知っているのですから、「再調査」など時間稼ぎの術策でしかありません。この総理の言葉は拉致被害者を見捨てかねない、重大な失言と言えるでしょう。

つまり、政府は拉致事件をいかに矮小化するかに腐心をしているということです。認定被害者が増えれば交渉のハードルも高くなるし、そもそも今まで何をやってきたのかと非難が集中します。「家族8人のうち5人でも帰ってきたのだから、それなりの実績ではな

いか。後は交渉で進めればよい」というのはとんでもない話で、100人以上の拉致被害者を取り返すことを考えたら今回カードを使い切ってしまったのは国民に対する大変な背信行為です。

家族会の怒りは、個別の自分たちの家族についての進展がなかったということではなく、総理に拉致問題を解決しようという意志がみられないことへの怒りです。もし、総理に拉致は絶対に解決するという決意が見られていれば、今回進展しなくても皆さん我慢しておられたでしょう。逆に、決然として席を立ててくれた方がよほど支持されたと思います(おそらく総理が「わかった、そういうことならもうやめよう」と言えば金正日はジェンキンス氏も含め8人全員を帰してきたでしょう)。繰り返しますが、ご家族の怒りは自分の家族に対してだけの私的なものではなく、救出運動を通して実感したこの国の現状、そして、それを象徴するかのような今回の訪朝に対する公的な怒りであることを、1人でも多くの方にご理解いただきたく思います。

これからも拉致は起きるかも知れない。平壤宣言などおかまいなしで、北朝鮮は必要とあらばいつでも拉致をやるでしょう。その対象は何でもない、普通の国民(あるいは在日国・朝鮮人)です。そう考えると今回の訪朝は今後の日本国全体も危機に落とし入れるものと言えるのではないのでしょうか。

間違いなく100人以上の日本人が拉致されています。おそらくその全貌が分かったときに日本の現代史は書きかえを迫られるでしょう。それほどこの問題は根の深い、日本の権力中枢に数十年の間刻み込まれたものまで含めたものです。その解決には必死の努力がなくてはなりません。しかも、家族はもとより被害者の中にも高齢者は少なくありません。総理が行って「再調査をお願いします」で帰ってくるということは、それらの人を見殺しにすることになります。

私たちはこの責任を問うていかなければなりません、それ以上に、国民一人ひとりの責任として、全被害者を取り返すためにそれぞれの立場で全力を尽しましょう。今も北朝鮮で私たちの救いを待っている人たちの切なる思いを一刻も早く実現するために。

(荒木和博)

[[[[[[[[調査会ニュース Vol.106]]]]]]](2004.5.24)

加藤久美子さん拉致で新情報

以下は青木英実本会常務理事（救う会福岡代表・中村学園大教授）からの情報です。拉致が成功した影には必ず未遂事件があるはずです。情報をお持ちの方はぜひお知らせ下さい。

水城四郎本会幹事長より「加藤久美子さん」失踪事件関連で新情報

北朝鮮に拉致された日本人を救出する福岡の会
代表 青木英実

本会水城四郎幹事長（福岡市議）の支持者から寄せられた情報によると、加藤さんが失踪した 1970 年夏頃、当時八幡東区（旧八幡区）で美容学生として、旧大蔵電停近くの美容院に住み込んでいた女性から概略以下のような体験をしたという。

加藤さんが失踪した旧大蔵電停そばの公園で夜友人と話していると、数人の男が乗った車が近づいてきた。車から 2 人の男が降りて迫ってくるので、怖くなって逃げたら、車を急発進して追ってきた。公園内に逃げ込んだところ出口をふさごうと回り込んできたが、別の出口を知っていたのでそこから逃げる事ができたという。

翌年 1971 年には、小倉北区（当時小倉区）で女性を海岸まで連れ出して拉致しようとした未遂事件も起こっており、極めて不審である。

北九州における 70 年代の類似事件については徹底的な洗い直しが必要であろう。また安明進氏によれば加藤さんは、横田めぐみさん、増元みみ子さん、市川修一さん、蓮池薫さん、その他氏名不詳の教官 3 名と金正日政治軍事大学校で日本語を教えていたとされる。

とりわけ、女性教官のなかではもっとも年かさで、リーダー的位置にあったと証言している。

蓮池さん、地村さんの家族が帰国したことにより、未解明の拉致事件が究明されることを強く期待する。

以上
5月25日

インターネット放送に増元・荒木対談

インターネット放送「チャンネル桜」で増元照明家族会事務局次長（調査会常務理事）と調査会代表荒木の対談が配信されています。小泉訪朝を受けて 24 日に収録したものです。ぜひご覧ください。アドレスは以下の通りです。

<http://www.ch-sakura.jp/>

[[[[[[[[調査会ニュース Vol.107]]]]]](2004.5.26)

古川了子さん拉致事件に関わる未遂事件

前のニュースで加藤久美子さん拉致に関わる未遂事件についてお知らせしましたが、古川了子さんについても若干時期はことなりますが、関係する可能性のある事件があります。お知らせしておきます。

古川さんの友人の先輩が昭和 45 年に千葉の洋裁学校に通っていたころ、行きつけの喫茶店で知りあった在日の男性に感じ良く話しかけられ、最初は喫茶店、何度目かに千葉駅近くのスナック・コンパで飲んだが、「もう一軒行こう」という話になったとき急に男性が3人となり、タクシーに乗る乗らないを朝鮮語で話すので、怖いと思い、結局断ってそのときは行かなかったが、その後その喫茶店にはその男性は一度も現れなかった。最近古川さんの事件を聞いて当時のことを思い出し、「あのときタクシーに乗っていたら」と思うという。

洋裁学校に通っていていなくなった人は松本京子さんをはじめ何人もいます。状況的にもこれに類似した事件は何件か寄せられています。やはり拉致事件の影には未遂事件がいくつもあるものと思います。情報をお持ちの方はぜひお寄せ下さい。

加藤さんの事件は 34 年前、古川さんの事件は 31 年前です。なるほど「10 件 15 人」だけであれば総理の訪朝で 5 人とその家族が帰ってきたわけですから、このやり方で問題が解決するように見えるかも知れませんが(実際には後の 10 人も実質上の棚上げなのですが)、しかし、実際には 100 人以上の人が拉致されているのは事実であり、その事実を間違いなく政府は隠しています。このままで行けば大部分の拉致被害者は救出されることなく北朝鮮でその命を終えなければなりません。

今回の総理訪朝は自らの不作為に隠蔽しておいて、幕引きを図ろうとするものであり、はるか昔に取り返して当然の家族(しかも 5 人)だけで、総理訪朝というカードを使ってしまったことの責任は厳しく追及されてしかるべきだと思います。今回の総理訪朝を評価する方は時間的な余裕の問題と拉致の全体像について、ぜひお考えいただきたいと思えます。

[[[[[[[[調査会ニュース Vol.108]]]]]]](2004.5.27)

米子未遂事件

妹原常務理事からの情報です。それにしても、この種の未遂などについて、全国的に見ても、警察はほとんどまともに調べていないようです。拉致は「あってはならないこと」だから「ないことにしておこう」という姿勢があちこちで見えてきます。その一方では私たちの活動については煙たがっておられるようです。まあ、何でもいいですが、これから次々拉致が分かったときに、認定しなかったことについてお偉いさんたちには相応の責任をとってもらいたいと思います。警察でも現場の第一線にいる皆さんの多くは一所懸命やっておられるのですから。

< 米子での未遂事件 >

松本京子さん事件の後で昭和 53 年ごろの拉致未遂事件です。

皆生温泉の砂浜で夜暗くなってからあるカップルが座って海を眺めていたら、後ろの方に妙な雰囲気を感じた。振り返ったところ数人の人影が匍匐（ほふく）前進で近づいてくるようだった。次の瞬間数人が殴りかかってきた。カップルはそれを振り払ってほうほうの態で逃げ帰ったという。

どうもこのカップルは総連関係者らしい。警察は当時被害届けが出ていないようだといって、再調査をしようとしな。公安調査庁は調査を行い、かなり確度の高い事件との認識を持っている模様。

[[[[[[[[調査会ニュース Vol.109]]]]]]](2004.5.31)

松本京子さんについて

1000 番台リストの一人である松本京子さん（昭和 52 年 10 月に米子市で失踪）について、細田博之官房長官は 5 月 22 日に山陰中央新報社の取材に対し「目撃者もあるし、（政府が拉致を認定している）十人に準じると思っている」と述べ、今後、十人とともに、政府として強く調査を求めていく考えを示したそうです。松本京子さんについては一昨年 10 月のクアラルンプールにおける日朝交渉でも北朝鮮側に安否確認を行っており、やっとそこまで来たかという感じですが、実は警察は松本さんの事件についてももともとは否定的でした。

平成 12 年 11 月 1 日に金子善次郎衆議院議員（当時民主党）は松本京子さんの失踪について質問主意書を提出しましたが、それに対する答弁書では「本事案については、鳥取県警察において、家出人捜索願を受理し、所用の調査を実施したが、北朝鮮に拉致されたと疑わせる状況等はなかったものと承知している」との答弁でした。これと官房長官の発言の違いはどうなっているのでしょうか。結局警察は真面目に調べていないか、あるいは調べたけれども隠蔽しているのではないかという思いを断ち切ることができません。

もう何年も前ですが、あるマスコミの方から、「警察から 40 人以上の認定されていない拉致被害者のリストを見せられた」という話を聞きました。結局この裏はとれませんでした。そういうリストがあることは事実のようです。

もちろん、今それを出せば「警察は何をしていたんだ」ということになるでしょうし、小泉訪朝も「10 件 15 人よりはるかに多くの拉致被害を知っていて隠した」ということで大きな非難を受けるでしょう。それが怖いのは分かりますが、拉致された人を救うことはそれよりはるかに重要な問題だと思います。警察には「捜査上の理由」などを盾にとることなく、明らかにできることは明らかにしてもらいたいと思います。

明日衆院外務委小委員会で参考人陳述

明日 9 時 30 分から開催される衆議院外務委員会の北朝鮮による拉致及び核開発問題等に関する小委員会で調査会代表荒木が意見陳述を行います。陳述するのは小此木政夫慶応大教授と荒木の 2 人です。山本美保さんの事件に関する中間報告も資料としており、政府未認定拉致被害者の問題の理解を求める予定です。

戦略情報研究所では下記の予定で第 1 回の講演会を行います。どなたでも参加できますので興味をお持ちの方はお誘い合わせの上おいで下さい。

日時 6 月 2 日（水）18:30 ~ 20:30

会場 友愛会館 1 階 A 会議室（港区芝 2-20-12 都営地下鉄三田線芝公園駅 A1 出口から出て直進 1 分左側）

講師 安明進氏（元北朝鮮労働党作戦部戦闘員）「北朝鮮の本質について」

増元照明氏(家族会事務局次長・調査会常務理事)「26年間を通して感じたこと」
荒木和博(調査会代表・戦略情報研究所代表)「拉致を招いた日本の体制 昭和
史からの視点」

参加費 2000 円(戦略情報研究所会員の方はお送りしてある参加券をご利用下さい)